

ひらじょういせき  
**平城遺跡**

平成 27 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金発掘調査報告書



2020

宮崎市教育委員会

ひら じょう い せき  
**平城遺跡**

平成 27 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金発掘調査報告書

2020

宮崎市教育委員会

## 序

宮崎市は、太陽と緑あふれる宮崎県の県都として、日々発展を続けています。市内では様々な開発事業が行われていますが、地中には遺跡（埋蔵文化財）と呼ばれる、過去の人たちが生活した痕跡が埋蔵されている場所があります。工事により消失を余儀なくされた埋蔵文化財は、文化財保護法に基づいて事前に教育委員会による発掘調査を実施、調査成果を報告書にまとめ、後世に伝えています。

今回発掘調査を行った平城遺跡は佐土原町にあります。発掘調査により、中世に柱穴に小皿を入れた痕跡が見つかったり、江戸時代の陶磁器が出土したりと、宮崎に住んだ人々の素朴な生活ぶりを窺うことができました。現代に生きる私たちは、こうした成果を未来へと残してゆかねばなりません。

発掘調査は冬に実施されました。調査中は寒波に苛まれましたが、こうして報告書の刊行に至ることができたのも、発掘調査にご理解いただいた地権者をはじめ周辺住民の方々、施工業者、発掘作業や室内整理作業に従事された方々のご協力によるものです。末尾ではございますが、この場を借りまして心よりお礼申し上げます。

令和2年3月

宮崎市教育委員会  
教育長 西田 幸一郎

## 例　　言

1. 本書は、平成27年に現地における発掘調査を実施した、国宝重要文化財等保存整備補助金対象事業（宮崎市市内遺跡）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 本発掘調査は、宮崎市教育委員会文化財課が民間事業者から依頼を受け実施した。

3. 発掘調査、整理作業は以下の手続きを経て実施した。

平成27年度

進達文書 平成27年1月20日（宮教文851号1）  
伝達文書 平成27年1月21日（宮教文851号3）  
発掘調査 平成28年1月26日～平成28年2月5日  
着手報告 平成28年2月3日（宮教文第874号2）  
発見通知 平成28年2月9日（宮教文第874号3）  
完了報告 平成28年2月9日（宮教文第874号4）  
保管証 平成28年2月18日（宮教文第874号6）

平成28年度

整理作業 平成28年5月18日～平成29年2月28日

4. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 宮崎市教育委員会 文化財課

平成27年度（発掘調査）

文化財課課長 日高 貞幸  
整理総括 埋蔵文化財係長 烏田 正浩  
調整担当 主査 鳥枝 誠  
庶務担当 主任主事 谷口 広清  
調査担当 主査 金丸 武司  
嘱託 大嶋 昭海

平成28年度（整理作業）

文化財課課長 羽木本 光男  
整理総括 井田 篤  
調整担当 井田 篤  
庶務担当 主任主事 武富 知子  
整理担当 主査 金丸 武司  
嘱託 小牟田 智子  
小野 貞子

5. 現地における測量は、トータルステーションを用いて行い、個別の遺構実測図は1/20、1/10で作成した。  
また、個別の写真撮影については6×7判モノクロ・リバーサルフィルムと35mmモノクロ・リバーサルフィルムを併用した
6. 現地における実測・遺構の写真撮影、出土遺物の写真撮影は金丸が行った。
7. 遺物の実測・トレースは、担当の指導の下、小牟田・小野及び室内整理作業員が行った。
8. 本書で使用する土色の表記は『新版 標準土色帳』に依拠した。
9. 本書で使用する北は真北である。
10. 出土遺物及び掲載図面及び写真、記録等は宮崎市教育委員会で保管している。資料の閲覧・利用に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。
11. 本書の執筆・編集は金丸が行った。

# 目 次

第Ⅰ章 遺跡周辺の環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	3
第Ⅲ章 調査の成果	3
第1節 基本土層	3
第2節 検出遺構	3
第3節 搅乱中の出土遺物	3
第Ⅳ章 総括	3

## 挿図目次

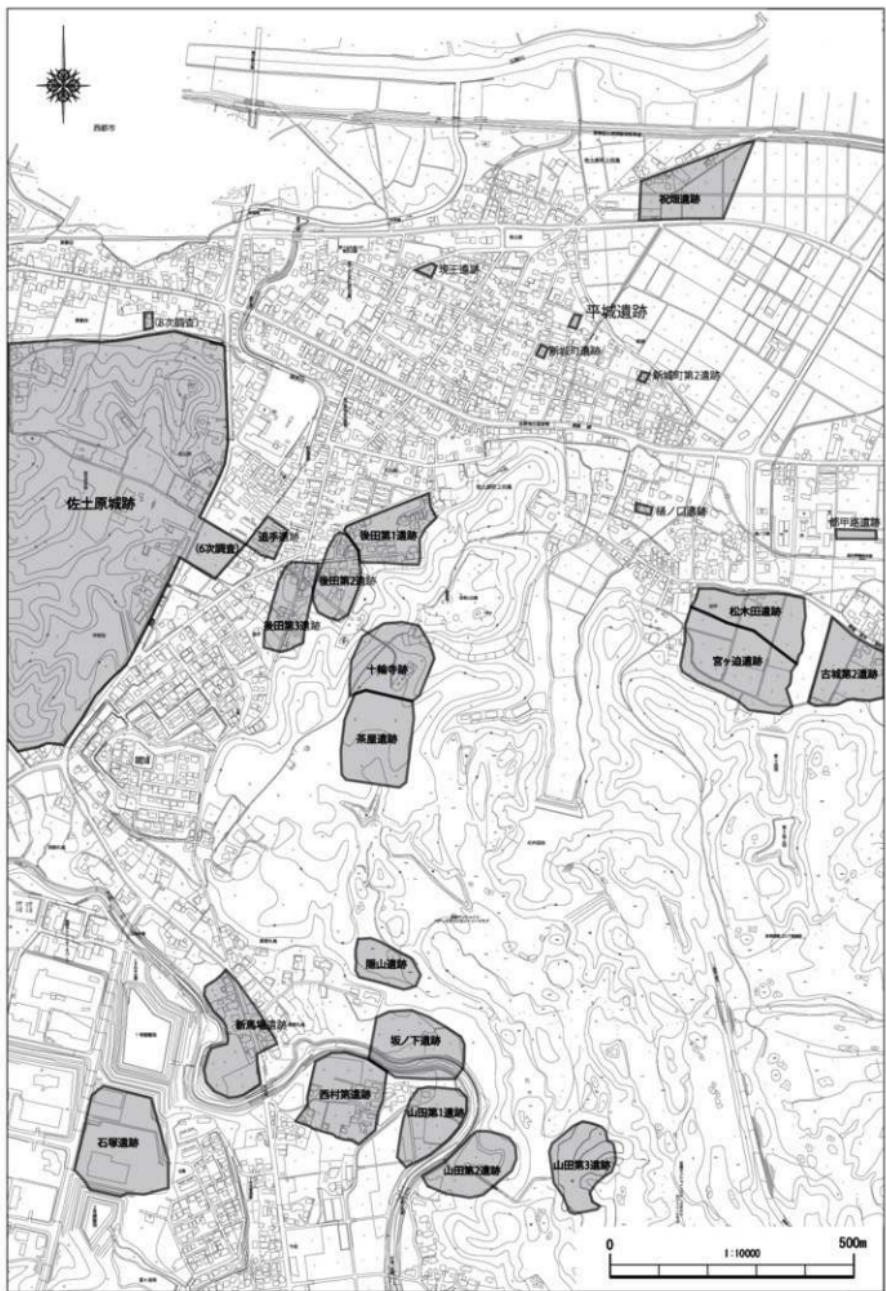
第1図 平城遺跡位置図	
第2図 平城遺跡周辺遺跡分布図	2
第3図 平城遺跡発掘調査対象範囲図	2
第4図 平城遺跡遺構分布図	4
第5図 平城遺跡検出遺構及び出土遺物実測図	4
第6図 平城遺跡出土遺物実測図	5

## 表図版

第1表 平城遺跡出土土器観察表(1)	6
第2表 平城遺跡出土土器観察表(2)	6

## 写真図版

図版1 平城遺跡近景、柱穴完掘状況	7
図版2 平城遺跡出土遺物	8



第1図 平城遺跡位置図 (S=1/10,000)

## 第Ⅰ章 遺跡周辺の環境

### 第1節 地理的環境

宮崎市佐土原町は宮崎市の北部に位置する。町内には、九州山地から米良を経由し日向灘へと注ぐ一つ瀬川が北部を、小河川と合流しながら不規則に蛇行する石崎川が南部を流れる。二つの河川の影響で、北部は川沿いに沖積平野、微高地、丘陵が東西に広がる一方、南部は丘陵間に微高地や沖積平野が入り組む複雑な地形を呈している。

平城遺跡は、佐土原町北西部の上田島に位置する。周辺は、南の丘陵から流下した砂泥による微高地が広がる。

### 第2節 歴史的環境

平城遺跡南東の川に面した微高地上に樋ノ口遺跡が立地する。縄文時代中期～後期初頭の遺跡であり、瀬戸内や豊前の影響下で発生した土器や内水面漁撈を意識した石錘が出土した。

樋ノ口遺跡より東の微高地上には、谷を挟んで古城第2遺跡と宮ヶ迫遺跡が立地する。どちらも弥生時代から始まり、宮ヶ迫遺跡は古墳時代後期を主体とし土器焼成土坑が多数検出され、古城第2遺跡は古代の掘立柱建物を多数検出した。吉本正典氏は、二つの遺跡の内容の違いについて、古墳時代に土師器製作を生業とした集落が、古代に国分寺や官衙造営時の瓦や須恵器の生産に携わる集落へ変質したと考察した（吉本2018）。

1252年、佐土原北部の田島荘の地頭職として東国より伊東祐明が下向する。やがて一族は田島氏と称し、現在の田島（佐土原町下田島）に本拠を置いたと伝えられる。

1335年、西都市都於郡に下向した伊東祐持は田島氏と対立の末滅亡させる。伊東氏は、上田島を都於郡と並ぶ地域支配の拠点とした。中でも戦国時代後期に佐土原城主となった伊東義祐は、城下に祇園や金柏寺など、京都を模した寺社を造営した。

江戸時代は島津氏を藩主とする佐土原藩が支配した。本拠の佐土原城は、平城遺跡南西部の馬蹄形をなす丘陵に築かれた山城である。室町時代に田島氏が築城後、伊東氏が城域を拡大、1611年に島津氏が櫓、堀、門を改修、その後麓（二の丸）に藩庁を移した。発掘調査はこれまで本丸と麓の藩主の屋敷等数箇所に実施されており、本丸では天守台を確認している。

佐土原城下は武士の居住区と商業エリアが明確に分かれている。佐土原城の東端は追手組と呼ばれる藩重臣の居住地であり、6次調査では礎石建物、掘立柱建物、井戸、池、溝、陶磁器、瓦、佐土原人形など、暮らししづくりを物語る多量かつ多種の成果が得られた。続いて8次調査は鳴之口組と呼ばれる中級武士の居住地であった。なお調査地に隣接した石碑には「幕末の頃諸認可証発行の役所が開設された/日州佐土原藩の今回の調査地は十文字組にあたる。御前刀剣鍛造実演の地でもある」とあるが、今日残された佐土原藩の書物の中にはそのような記録は確認できなかった。

このように平城遺跡の立地する上田島地区は、古代以降、佐土原の中心的役割を果たしてきた場所にあたる。

## 第Ⅱ章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

平成27年11月4日、民間事業者より個人住宅建築に伴う埋蔵文化財の事前審査があった。事



第2図 平城遺跡周辺遺跡分布図 (S=1/3,000)



第3図 平城遺跡発掘調査対象範囲図 (S=1/1,000)

業地は周知の埋蔵文化財包蔵地「新城町第1遺跡」に近接することから平成27年12月21日に試掘調査を実施、中世～近世の埋蔵文化財が確認されたことから、宮崎県文化財課は新規の埋蔵文化財包蔵地「平城遺跡」と認定した。

市文化財課はこの調査結果を受けて民間事業者と協議を行い、住宅部分は埋蔵文化財に影響を及ぼさない工法で施工するが、駐車場は道路と同程度の高さまで削平することから、埋蔵文化財の影響を免れないため、本発掘調査を実施することになった。

発掘調査は平成28年1月26日から2月5日にかけて実施した。

## 第2節 調査の経過

調査は、バックホウにて表土を剥いだ後、人力にて遺構検出を行った。調査前は宅地であったため、戦後のゴミ穴などの搅乱が激しかったが、中には近世に遡る陶磁器片も混じっていた。暗黄褐色の粘質土で検出を行ったところ柱穴らしきピットを確認した。

## 第III章 調査の成果

### 第1節 基本土層

調査区は地表面下に表土があり、その下層に暗黄褐色粘質土が堆積する。遺物包含層はなく、後世の造成時に削平されたと考えられる。この暗黄褐色粘質土層は、宮崎平野における沖積平野の遺構検出面である。なおこの下層には灰褐色砂質土が厚く堆積している。

### 第2節 検出遺構(第5図)

遺構はピットのみである。本調査において27基検出された。全体的に径約20～40cm、深さは20～40cmの規模に収まる。形状から掘立柱建物の柱穴の可能性が高いが、配置に規則性は見られなかった。以下、埋土から遺物や礫が出土した3基を説明する。

P1は調査区中央よりやや東寄りで検出した。検出面の径は25cmであり、やや窄まりながら深さ40cmで底面に至る。断面はU字状を呈する。底面付近から7点の小ぶりの角礫と共に遺物が4点出土した。1～3は小皿である。底面には糸切りの痕跡が残る。4は破片のため定かでないが、甕の可能性が高い。P2は調査区北東隅部で検出した。長軸40cm、短軸30cmの長円形を呈しており、途中段を持ちながら深さ25cmで底面に至る。検出面付近より、平坦面に磨耗のある礫が出土した。P3は径約35cmのやや歪な円形を呈しており、やや窄まりながら深さは20cmで底面に至る。底面付近より扁平な円礫が2点出土した。

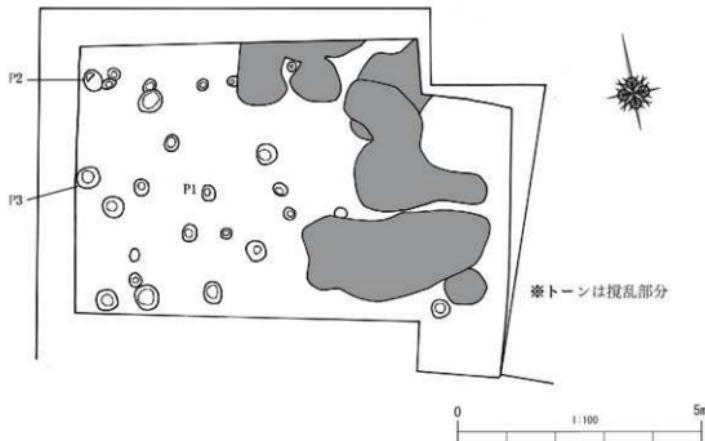
### 第3節 搅乱中の出土遺物(第6図)

調査区の北や東の調査区端部は搅乱が数多く見られた。埋土中には近現代の工業製品が認められたため、戦後のゴミ穴と考えられる。この中には近世の遺物も混じっていたため掲載した。

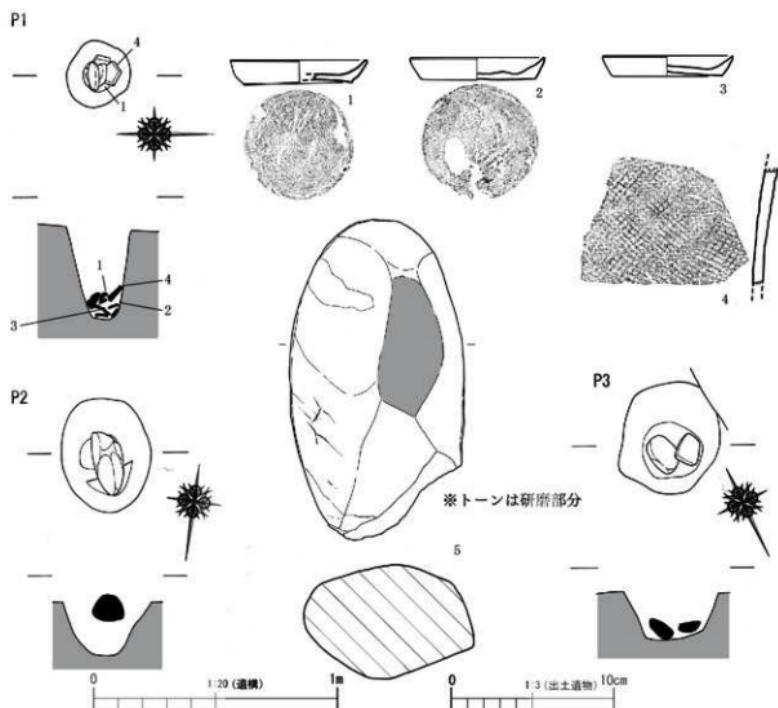
6～10は陶器であり、花瓶である10以外は全て碗である。11～20は磁器もしくは染付である。器種は盃や蕪麦猪口、大皿、輪花皿、香炉等豊富である。21は焙烙である。22はガラス製の簪の尖端部である。23は建物の棟の端に置かれた飾り瓦の一部と思われる。このほか國化不可能であったが、佐土原人形と思われる素焼き人形の破片も多く混入していた。

## 第IV章 総括

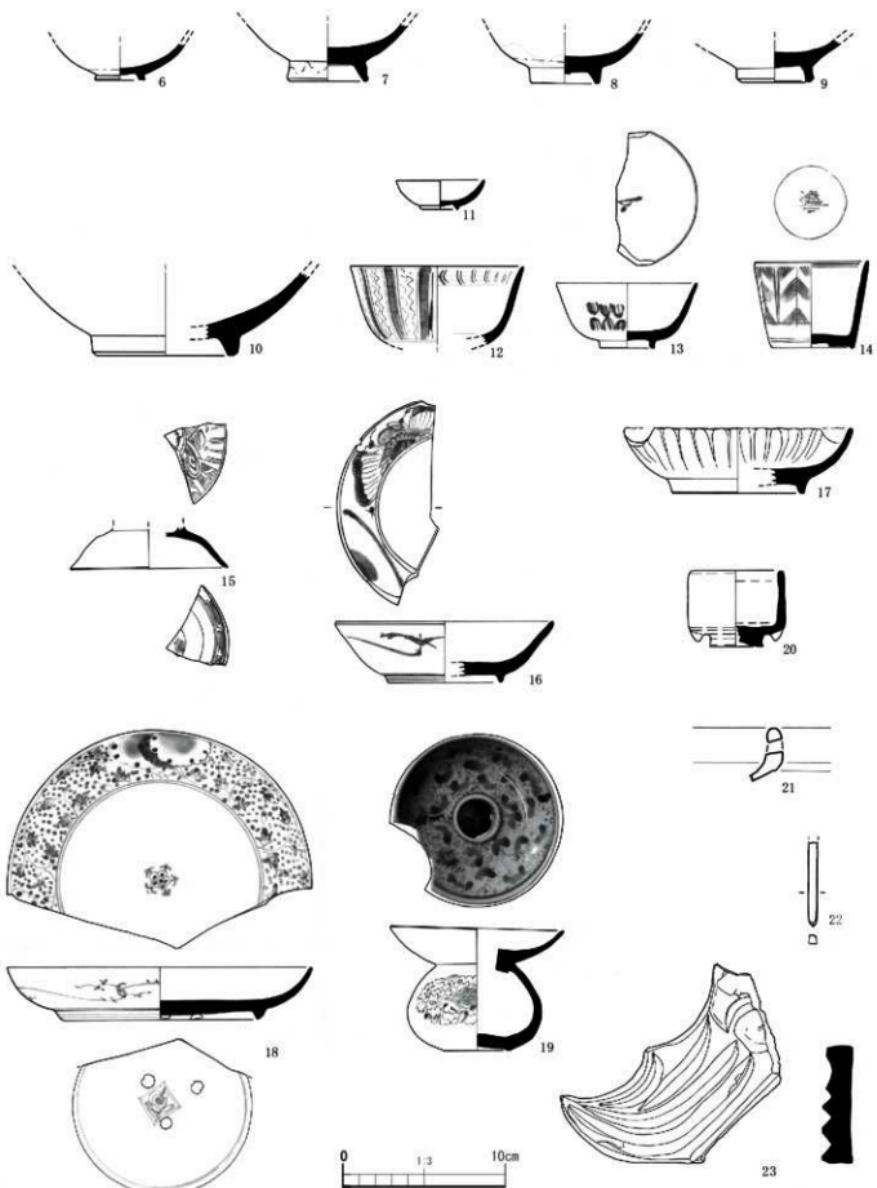
P1は、土師器小皿の埋納が確認されたため中世の所産と考えられる。出土状況から、埋納目



第4図 平城遺跡遺構分布図



第5図 平城遺跡検出遺構及び出土遺物実測図



第6図 平城遺跡出土遺物実測図

的で構築したピットが、廃絶後の柱穴を再利用した埋納遺構と考えられる。

降矢哲男氏は、九州島内において土坑や柱穴から土師器の壺や小皿がまとめて出土する事例を集めしており、宮崎県では都城市都之城跡、久玉遺跡、松原第1遺跡やえびの市弁済天遺跡など県西部の遺跡が紹介されている。氏はこのような遺構の性格を「地鎮め」と位置づけているが、P1も同様の目的を持っていた可能性がある。なお降矢氏は、このような遺構は全国的に城郭や寺院と関連が深い傾向にあるとしている。本遺跡は、調査地周辺に平城、新城町と、城館の存在を想起させる地名が残されることは興味深い。

P1以外にも、調査区からはピットが多く検出された。これらの時期は手がかりがなく不明であるが、平城遺跡周辺は十文字組と呼ばれる下級武士の居住地にあたり、幕末(安政年間)に描かれた「佐土原城下絵図」によると、今回の調査地には「本田平之丞」という武士の名がある。同時期の佐土原藩の分限帳では、本田平之丞は13石取りの徒步と記されている。本調査で確認されたピットの多くも近世の武家屋敷に伴う柱穴であろう。

#### 《参考文献》

吉本正典 2018『一つ瀬川下流域右岸の古墳時代後期～古代の遺構群』宮崎考古 第28号

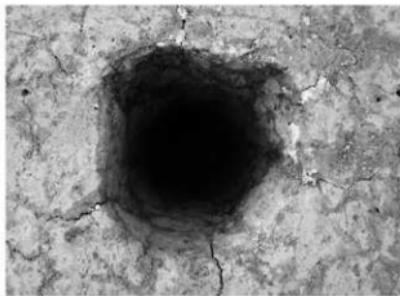
降矢哲男 2003『九州地方における地鎮めの様相』『統文化財学論集』

第1表 平城遺跡出土土器観察表(1)

遺物番号	出土遺構	種別	器種	法面(復元)			色調	焼成	調査		出土	備考	
				1D径	底径	器高			外面	内面			
1	P1	土師器	小皿	8.2	6.6	1.6	にぶい・黒	灰黒	精良	回転模ナデ 底面・系切り瓶			
					7.5WMS/3	7.5WMS/2							
2	P1	土師器	小皿	8.2	7.1	1.4	にぶい・黒	にぶい・黒	精良	回転ナデ	回転模ナデ 底面・系切り瓶		
					7.5WMS/4	7.5WMS/3							
3	P1	土師器	小皿	7.9	6.7	1.3	にぶい・黒	にぶい・黒	精良	回転ナデ	回転模ナデ 底面・系切り瓶		
					7.5WMS/3	7.5WMS/3							
4	P1	土師器	甕	—	—	—	にぶい・黒	にぶい・黒	精良	格子目ダラキ	ナデ	長石 5mm以下:多量	
					7.5WMS/3	7.5WMS/4							
21	複数	土師質	塔塔	—	—	—	にぶい・赤褐	にぶい・赤褐	精良	回転ナデ	回転ナデ	長石 5mm以下:多量	外面に スス付着
					5W/5	5W/4							

第2表 平城遺跡出土土器観察表(2)

遺物番号	出土遺構	種別	器種	法面(復元)			産地	時期	備考	
				1D径	底径	器高				
6		陶器	碗	—	3.0	—	関西	近世		
7		陶器	碗	—	4.6	—		近世		
8		陶器	碗	—	4.1	—		近世		
9		陶器	碗	—	4.6	—	關東	近世		
10		陶器	花瓶	—	(8.4)	—	肥前	近世		
11		粗器	壺	5.2	1.2	0.9	肥前	18C		
12		染付	端反碗	(10.5)	—	—	肥前	1820～1860		
13		染付	碗	8.6	3.0	4.0	瀬戸美濃	1820～1860		
14		染付	蘿友猪口	6.3	4.8	6.8	肥前	1780～1820	底面蛇目開削	
15		染付	端反碗蓋	(9.9)	—	—	肥前	1820～1860年		
16		染付	小皿	13.2	7.0	3.7	肥前・波佐見	18C後半	砂目模	
17		粗器	輪花皿	(13.7)	0.9	4.0	肥前			
18		染付	大皿	18.5	11.8	3.3	肥前	18C第2～第3四半期	角湯桶 底部手書き 砂目模	
19		染付	花瓶	10.6	4.0	2.5	肥前			
20		青磁	秀印等	5.8	3.3	4.6	肥前		非实用品か	



P1 完掘状況（真上から）



P3 完掘状況（真上から）



一段目：  
P1 出土土師器皿

二段目左：  
P1 出土土師器

二段目右：  
P2 出土石器

三段目：  
搅乱出土陶磁器



## 報告書抄録

ふりがな	ひらじょういせき
書名	平城遺跡
副書名	平成27年度国宝重要文化財等保存整備費補助金発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第131集
編著者名	金丸武司
発行機関	宮崎市教育委員会
所在地	〒880-2101 宮崎市大字跡江4200番地3
発行年月日	2020年3月
ふりがな 所収遺跡名	ひらじょういせき 平城 遺跡
ふりがな 所在地	みやざきけんみやざきしきざわらちょうかみたじまひらじょう 宮崎県宮崎市佐土原町上田島平城1997番地
市町村コード	45201
遺跡番号	13-001
北緯	32度03分04秒
東経	131度26分07秒
調査原因	個人住宅建築
遺跡種別	散布地
調査期間	H28.1.26～H28.2.5
調査面積	50m <sup>2</sup>
主な時代	中世、近世
主な遺構	ピット
主な遺物	土師器、近世陶磁器、瓦

宮崎市文化財調査報告書 第131集

平城遺跡

令和2年3月

宮崎市教育委員会